

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 公益社団法人 国際日本語普及協会

1. 事業名称

難民を中心とした定住者のための日本語学習支援、日本語学習用教材作成および支援者養成事業

2. 事業の目的

地域在住の定住者と多文化共生社会の実現へ向けて共に進んでいくためには、定住者が安定した生活の基盤の上に生き生きと生活できることが前提となる。本事業においては、難民を中心とした定住者が、生活日本語を習得し、本人の能力を生かしながら生活の安定、質の向上が図れる機会を拡充することを目的とする。

3. 事業内容の概要

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案、活用のためのガイドブック、教材例集等を活用し、定住者の生活の質の向上に結びつく日本語力習得のための教室を実施する。教室実施に合わせ教材を作成、および支援者に対する研修を実施することにより、難民等の定住者に対する支援機会が拡充されることを目指す。カリキュラム、教材作成に当たっては、標準的なカリキュラム案にある各テーマの他、昨年度「地域日本語教育実践プログラム(B)」で作成、使用した教材をフィードバックを基に改定した内容を盛り込む。

4. 運営委員会の開催について

【概要】 ※添付資料10(運営委員会議事録)参照

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年8月5日 15:00～16:30	1時間30分	公益社団法人 国際日本語普及協会	石上和敬、大友正弘、岩瀬香奈子、伊藤寛了、内藤真知子、戸田佐和、樋口博	1. 難民を中心とした定住者のための日本語学習支援事業について 2. 難民を中心とした定住者のための支援者養成事業について	1. 想定する学習者、募集方法、募集案内につき検討 2. 想定する参加者、講座内容、募集方法、募集案内につき検討
2	平成26年2月21日 17:30～19:00	1時間30分	公益社団法人 国際日本語普及協会	石上和敬、大友正弘、岩瀬香奈子、伊藤寛了、内藤真知子、戸田佐和、樋口博	1. 取組1, 2, 3実施報告および振り返り 2. 今後の継続フォローについて	1. 学習者支援、支援者養成の内容等につき検討 2. 学習者および支援者への呼びかけ、募集方法につき検討

5. 日本語教室の実施

(1) 講座名称

難民を中心とした定住者のための日本語学習支援事業

(2) 目的・目標

難民を中心として定住者に対し、日本語学習の機会を提供し、定住者の生活の安定、質の向上を図ることを目的とする。

(3) 対象者

難民を中心とした定住者

(4) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)

(5) 使用した教材・リソース

「にほんごえじてん」、「はじめましてにほん」(以上平成24年度文化庁第三国定住難民に対する日本語教育事業にて作成)、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案等

(6) 受講者の総数 12人 ※添付資料1(「日本語教室」出欠表)参照

(出身・国籍別内訳 ミャンマー 10人, シンガポール 1人, アメリカ 1人)

(7) 日本語教室の具体的内容 ※添付資料2(「日本語教室」授業報告)参照

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 10月7日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	5人	ミャンマー(5 人)	自己紹介、家 族に関する会 話	日本語で初対面の挨拶と姓名、出身、家族を含 む自己紹介。自分の家族の人数を言ったり、相 手に尋ねる。	井上紀代	大津修
2	平成25年 10月10日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	5人	ミャンマー(5 人)	初対面の挨拶、好きなもの・趣味	日本語で初対面の挨拶と姓名、出身、家族を含 む自己紹介。自分の好きなものや、趣味を言う。	大津修	小瀧雅子
3	平成25年 10月17日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	6人	ミャンマー(4 人)、シンガ ポール(1人)、 アメリカ(1人)	自己紹介(ま とめ)、相手に ついてインタ ビュー	第1回、第2回で学習した自己紹介についてまと める。ペアでインタビューをし合い、その相手 についてわかったことを発表する。	松井治子	小瀧雅子
4	平成25年 10月21日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	6人	ミャンマー(6 人)	買い物(洋服 服)、ちらしの 情報読み取り	チラシを読んで情報を得る(大きい数、チラシの 言葉の意味)。店で試着をして希望の洋服を貰 う。	井上紀代	小瀧雅子
5	平成25年 10月24日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	4人	ミャンマー(4 人)	交通経路、駅 や乗り物	自宅からの交通経路を説明する。駅や乗り物に 関する生活漢字のうち基本的なものを理解す る。	小瀧雅子	大津修
6	平成25年 10月28日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	4人	ミャンマー(4 人)	身体部位、病 状、診療科	体の主な名称を覚え、その基本的な漢字を理解 する。病状を表現出来るようにする。診療科を覚 え、その漢字を見てわかるようにする。	大津修	小瀧雅子
7	平成25年 10月31日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	5人	ミャンマー(6 人)	病状、医者とのやりとり	病状を表現出来るようにする。実際の病院の場 面で、医者とのやりとりができるようにする。各自 のレベルにあわせた読解・漢字学習をする。	小瀧雅子	松井治子
8	平成25年 11月11日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	2人	ミャンマー(2 人)	毎日の生活、 一日の生活	毎日の生活の動詞と時間の言い方を学習する。 一日の生活について話せるようにする。	井上紀代	松井治子
9	平成25年 11月14日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	4人	ミャンマー(4 人)	曜日の漢字、 休みの日	曜日の漢字を学習する。休みの日について話せ るようにする。	井上紀代	大津修
10	平成25年 11月18日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	3人	ミャンマー(3 人)	時の言葉、条 件文「～たら」	時の言葉の漢字を学習する。条件文「～たら」を 正しく作って話せるようにする。	松井治子	井上紀代
11	平成25年 11月21日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	4人	ミャンマー(4 人)	時の言葉 (2)、条件文 「～たら」(2)	時の言葉の漢字を学習する-2回目。条件文「～ たら」を正しく作って話せるようにする-2回目。	松井治子	井上紀代
12	平成25年 11月25日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	4人	ミャンマー(4 人)	電車の車内放 送、掲示物	電車の車内放送を理解する。電車の運行にトラ ブルがあった際の掲示物、アナウンスなどを理 解する。	松井治子	大津修
13	平成25年 11月28日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	5人	ミャンマー(5 人)	自分の住所、 診療申込書、 問診票	自分の住所を漢字を使って書く。病院の診療申 込書や問診票の内容を理解して記入する。	井上紀代	大津修
14	平成25年 12月2日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	5人	ミャンマー(5 人)	支援者との自己 紹介・会 話、家族に関 する漢字	支援者の日本人とお互いの自己紹介を発展さ せ、会話を楽しむ。家族に関する漢字が認識す る。	井上紀代	松井治子
15	平成25年 12月5日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	5人	ミャンマー(5 人)	不在連絡票	宅配便などの不在連絡票の内容を理解し、再配 達で受け取ることができるようにする。不在配達 票の主要な漢字語彙を認識できるようにする。	大津修	井上紀代
16	平成25年 12月9日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	3人	ミャンマー(3 人)	不在連絡票 (2)、再配達 依頼、健診案 内	宅配便などの不在票の語彙の復習。宅配便など の再配達の依頼をオペレーターにする。健診案 内を読んで申込書に記入する。	大津修	井上紀代
17	平成25年 10月7日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	5人	ミャンマー(5 人)	年賀状	年賀状に必要な漢字を書く。年賀状を書く。	大津修	小瀧雅子
18	平成25年 12月16日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	4人	ミャンマー(4 人)	健康診断	健康診断に関する漢字を読む。健康診断の通知 の内容を理解する。	小瀧雅子	大津修
19	平成25年 12月19日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	4人	ミャンマー(4 人)	天気、災害	天気に関する漢字の基本的なものが認識する。 災害についての基礎知識を学ぶ。	小瀧雅子	井上紀代
20	平成25年 12月26日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	3人	ミャンマー(3 人)	日本の年末・ 年始、天気・ 災害(2)	日本の年末(年始)の行事について学ぶ。天気・ 災害に関する漢字の基本的なものが認識する。	小瀧雅子	松井治子

21	平成26年 1月6日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	3人	ミャンマー(3 人)	日本の正月	支援者とのグループワークでお互いの正月の風 習について話し合う。漢字学習(食、飲、行、見、 貝、買の6文字)	小瀧雅子	松井治子
22	平成26年 1月9日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	4人	ミャンマー(4 人)	緊急電話	火事・交通事故・泥棒・ひったくりに遭遇した場合 の110番・119番への通報する。漢字学習(上、 下、左、右、外、内の6文字)。	大津修	小瀧雅子
23	平成26年 1月16日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	3人	ミャンマー(3 人)	就職面接	面接時の服装・所作を確認し、質問に対する適 切な答え方を練習する①。漢字学習(名、男、 女、好、読、書 の6文字)。	松井治子	井上紀代
24	平成26年 1月20日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	2人	ミャンマー(2 人)	病院の受診	病院や薬局での流れを理解し、実際場面で自信 を持って受診できるよう支援者と練習する。漢字 学習「体・元・気・手・足・耳」	大津修	松井治子
25	平成26年 1月23日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	2人	ミャンマー(2 人)	日本のマ ナー・礼儀	日本のマナー・礼儀(結婚式・お葬式)について 理解を深める。漢字学習(新、古、寺、時、間、半 の6文字)。	大津修	井上紀代
26	平成26年 1月27日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	2人	ミャンマー(2 人)	日本の年中 行事	日本の年中行事を知ることによって、日本の文 化・習慣について理解を深める。漢字学習(米、 茶、肉、魚、花、田 の6文字)。	井上紀代	小瀧雅子
27	平成26年 1月30日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	2人	ミャンマー(2 人)	就職面接(2)	支援者の助けを得て、自信をもって面接に臨む ことができるようにする。漢字学習(友、大、小、 高、安、長の6文字)。	松井治子	井上紀代
28	平成26年 2月3日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	3人	ミャンマー(3 人)	最終日のス ピーチ準備	最終日のスピーチの内容を考え、準備する。漢 字学習(森、石、岩、竹、車の6文字)。	小瀧雅子	大津修
29	平成26年 2月6日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	2人	ミャンマー(2 人)	スピーチ原稿 作成	最終日のスピーチ原稿を作成する。招待状を作 成し、招待者に持参する。漢字学習(言、字、 聞、先、生、本の6文字)	井上紀代	小瀧雅子
30	平成26年 2月10日 18:45～ 20:45	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	4人	ミャンマー(4 人)	スピーチ	スピーチ原稿を完成し、プレゼンの練習をする。 本番のスピーチをスムーズに行う。	小瀧雅子	大津修

(8) 受講者の募集方法 ※添付資料3(「日本語教室」募集チラシ)参照

港区国際交流協会、港区役所および公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部RHQ支援センターを通じて広報、参加者募集をするとともに当協会所在地である神谷町を拠点に地域のコミュニティー活動、定住外国人支援活動を行っている運営委員を通じて参加者を募った。

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)



(10) 目標の達成状況・成果

30回の講座終了後に実施したアンケート結果によると、アンケートを回収した受講者全員から講座は全体を通して「とても役に立った」との回答が得られた。使用した教材についても、全員から「とても役に立った」との回答を得た。以上のことから、講座全体を通して日常遭遇する生活場面に即した「生活日本語」に焦点を当てた今回の講座は、受講者にとって有益な内容であったと考える。一方、講座の回数については、大多数の受講者からは「ちょうどいい」との回答が得られたが、1名の受講者から「もっと長い方がいい」との意見も聞かれ、更に幅広いテーマの学習希望があることが窺われるが、「難民を中心として定住者に対し、日本語学習の機会を提供し、定住者の生活の安定、質の向上を図ることを目的」とした今回の講座は初期の目標を概ね達成したと考える。

(11) 改善点について

アンケートの自由記述のコメント中、日本語能力検定試験対策を希望する意見が1名からあった。この回答は、「生活日本語」に焦点を当てた講座内容とはそぐわないものであるが、回答した学習者が比較的日本語コミュニケーション能力の高い受講者であったことを考え合わせると、日本語力にレベル差のある受講者全体の満足を得るために、日本語力のある受講者に対して何らかの方策を検討する必要があると考える。また、講座の1週間の回数について聞いた問では、「週1回の方がいい」との回答は1名であったが、講座開催中「週2回通うのは大変」との感想が講座開催中に複数の受講者から出たことを考えると、長期間開催の講座では、受講者の負担を軽減するためには週1回の開催が望ましいと考える。講座の参加者は総数では12名であったが、諸事情により全回参加できない受講者が多かったため、1回毎の参加者数が5名以下の回が半数以上あった。今後開催する際は、定住者のコミュニティに直接働き掛ける等の策を講じたい。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称
難民を中心とした定住者のための支援者養成事業
- (2) 目的・目標
難民を中心とした定住者を支援をする支援者に対する研修を実施することにより、定住者の生活の安定、質の向上を図ることを目的とする。
- (3) 対象者
定住者支援に現在関わっている、または今後関わる意思のある人
- (4) 開催時間数(回数) 30 時間 (全 15 回)
- (5) 使用した教材・リソース
「にほんごえてん」、「はじめましてにほん」(以上平成24年度文化庁事業にて作成)、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案等
- (6) 受講者の総数 31 人 ※添付資料4(「支援者研修」出欠表)参照
(出身・国籍別内訳 日本 31人)
- (7) 養成・研修の具体的内容 ※添付資料5(「支援者研修」授業報告)参照

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年 10月21日 16:30～ 18:30	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	11人	日本(11人)	イントロダク ション	日本語のわからない外国人の立場について理解する。地域ボランティア教室についてののたまかなイメージをもつ。	小瀧雅子	井上紀代
2	平成25年 10月28日 16:30～ 18:30	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	12人	日本(12人)	日本語の音 声、文字、表 記、構造等	日本語の音声、文字/表記、構造、使用場面等に関する主な特徴について理解する。日本語を学習する外国人にとって、何が困難かについて理解する視点を持つ。	小瀧雅子	大津修
3	平成25年 11月11日 16:30～ 18:30	2時間	公益社団法人 国際日本語普 及協会	13人	日本(13人)	教材準備の 際の留意点	地域の日本語教室の学習者の要望を知る。教材を準備する際に留意する項目を学ぶ。	松井治子	井上紀代
4	平成25年 11月18日 16:30～ 18:30	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	10人	日本(10人)	「生活日本 語」支援につ いて、実践研 修第1回準備	「生活日本語」勉強会の概要を知る。実践研修第1回(12/2)に向けて準備する。	井上紀代	松井治子
5	平成25年 11月25日 16:30～ 18:30	2時間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	7人	日本(7人)	品詞や活用 の扱い方、実 践研修第2回 準備	実践研修時の基本としての日本語教育の品詞や活用の扱い方を具体的に考える。漢字の導入のやり方。実践研修第2回(12/9)に向けて準備する。	大津修	松井治子

6	平成25年 12月2日 18:45～ 20:45	2時 間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	7人	日本(7人)	実践研修第1 回、自己紹 介、家族呼称	学習者とわかりやすい日本語でコミュニケーションができる(自己紹介から話題を広げる)。漢字(家族呼称)を導入して、読み方や書き順などの指導をする。	井上紀代	松井治子
7	平成25年 12月9日 18:45～ 20:45	2時 間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	5人	日本(5人)	実践研修第2 回、不在連絡 票、再配達依 頼、健診案内	宅配便などの不在票の語彙の復習。学習者が宅配便などの再配達の依頼をオペレーターにできるようにする。健診案内の見方の指導。	大津修	井上紀代
8	平成25年 12月16日 16:30～ 18:30	2時 間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	6人	日本(6人)	実践研修第1 、2回振り返 り、第3、4回 準備	実践研修1.2を振り返り、課題を考える。実践研修3.4について準備する。	小瀧雅子	大津修
9	平成26年 1月6日 18:45～ 20:45	2時 間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	9人	日本(9人)	実践研修第3 回、学習者の 発話引出し、 文章化サポ ート等	学習者の発話をうまく引き出し、その発話の文章化をサポートする方法を学ぶ。日本と学習者の故郷のお正月の風習を例に、お互いの文化についての相互理解を深める。漢字学習支援の具体的な方法を学ぶ。	小瀧雅子	松井治子
10	平成26年 1月20日 18:45～ 20:45	2時 間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	7人	日本(7人)	実践研修第4 回、病院、薬 局での会話	学習者が病院や薬局での流れを理解し、診察のシミュレーションを通して、今後、不安なく、診療を受けられるようにサポートする。漢字学習支援の具体的な方法を学ぶ。	大津修	松井治子
11	平成26年 1月27日 16:30～ 18:30	2時 間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	4人	日本(4人)	実践研修第3 、4回振り返 り、第5～8回 準備	実践研修第3回、第4回の振り返りを通し、生活者の日本語支援では何が大切か理解する。今後の実践研修(5～8回)の流れと趣旨を把握する。実践研修での漢字学習支援の担当を決め、方法を確認する。	小瀧雅子	井上紀代
12	平成26年 1月30日 16:30～ 18:30	2時 間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	6人	日本(6人)	実践研修第5 回、就職模擬 面接	模擬面接の面接官として学習者の相手をし、その所作・質問への答え方への助言をする。漢字指導(友、大、小、高、安、長の6文字)	松井治子	井上紀代
13	平成26年 2月3日 16:30～ 18:30	2時 間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	6人	日本(6人)	実践研修第6 回、スピーチ 指導	最終日のスピーチの内容を考え、準備する。漢字指導(森、石、岩、竹、車の6文字)	小瀧雅子	大津修
14	平成26年 2月6日 16:30～ 18:30	2時 間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	6人	日本(6人)	実践研修第7 回、スピーチ 原稿作成指導	最終日のスピーチ原稿と招待状作成のサポートをする。漢字指導(言、字、聞、先、生、本の6文字)	井上紀代	小瀧雅子
15	平成26年 2月10日 18:45～ 20:45	2時 間	浄土真宗本願 寺派 光明寺	8人	日本(8人)	実践研修第8 回、スピーチ 指導	スピーチ原稿の完成とプレゼン練習のサポートをする。本番のスピーチがスムーズにできるようにサポートする。	小瀧雅子	大津修

(8) 受講者の募集方法 ※添付資料6(「支援者研修」募集チラシ)参照

港区国際交流協会、港区役所を通じて広報、参加者募集をするとともに当協会所在地である神谷町を拠点に地域のコミュニティ活動、定住外国人支援活動を行っている運営委員を通じて参加者を募った。その他、自社所属外国人社員の支援を検討している(株)ファーストリテイリング社から希望者が交代で参加。

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)



(10) 目標の達成状況・成果

15回の講座終了後に実施したアンケート結果によると、アンケートを回収した受講者全員から講座は全体を通して「とても役に立った」または「役に立った」との回答が得られた。学習者と対面して実際に支援を体験してみる実践研修の回、支援者のみで座学を行う回に分けて聞いてみたところ、どちらの回も全員から「とても役に立った」または「役に立った」との回答が得られた。今回使用した教材についても、全員から「役に立った」との回答が得られた。また、自由記述によるコメント中でも「実生活に密着した指導方式を知り大いに刺激されました。」等の意見が多数聞かれた。更に今後の活動予定に関する質問でも、現在既に支援に関わっている受講者以外の全員から、今後日本語支援の活動に「すぐに携わりたい」または「近い将来携わりたい」との意見が聞かれたことから、今回の「難民を中心とした定住者を支援をする支援者に対する研修を実施することにより、定住者の生活の安定、質の向上を図ることを目的」とした講座は、概ね初期の目標を達成したと考える。

(11) 改善点について

アンケート中、自由記述でコメントを求めたところ、「単にボランティアだけでなく、日本語教師の資格の取り方や実践も教えて頂きたかった」、また「日本語を教えるためのノウハウをもう少し具体的に順序立って学べたら尚良かった」との意見が聞かれた。前者の意見は、講座の主旨にはそぐわない意見であるが、このようなスタイルの講座の意義を更に深く理解していただくよう努めるとともに、後者の意見を持つ受講者がいることも勘案し、講座開催期間を少し長くとることにより、日本語支援に役立つ基礎知識についても更に学んでいただける内容を検討したいと考える。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称
「生活日本語」支援用教材
- (2) 対象
難民を中心とした定住者
- (3) 目的・目標
難民を中心として定住者に対し、日本語学習支援用教材を作成することにより、定住者の生活の安定、質の向上を図ることを目的とする。
- (4) 構成・総ページ数
122ページ
- (5) 教材作成会議の開催について
開催なし
- (6) 使い方
支援を実施する支援者がその都度プリントアウトして使用することを想定。
- (7) 具体的な活用例
地域のボランティア教室等において、定住者向けに「生活日本語」をテーマとした支援活動での活用。
- (8) 成果物の添付 ※添付資料7(作成教材リスト)参照
成果物(作成教材)につきましては、別途お送りいたします。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

地域在住の定住者と多文化共生社会の実現へ向けて共に進んでいくためには、定住者が安定した生活の基盤の上に生き生きと生活できることが前提となる。本事業においては、難民を中心とした定住者が、生活日本語を習得し、本人の能力を生かしながら生活の安定、質の向上が図れる機会を拡充することを目的とする。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

取組1「日本語教室の実施」においては、30回の講座終了後に実施したアンケート結果によると、アンケートを回収した受講者全員から講座は全体を通して「とても役に立った」との回答が得られた。以上のことから、講座全体を通して日常遭遇する生活場面に即した「生活日本語」に焦点を当てた今回の講座は、受講者にとって有益な内容であったと考える。一方、講座の回数については、大多数の受講者からは「ちょうどいい」との回答が得られたが、1名の受講者から「もっと長い方がいい」との意見も聞かれ、更に幅広いテーマの学習希望があることが窺われるが、「難民を中心として定住者に対し、日本語学習の機会を提供し、定住者の生活の安定、質の向上を図ることを目的」とした今回の講座は初期の目標を概ね達成したと考える。

取組2「日本語教育を行う人材の養成・研修」においては、15回の講座終了後に実施したアンケート結果によると、アンケートを回収した受講者全員から講座は全体を通して「とても役に立った」または「役に立った」との回答が得られた。学習者と対面して実際に支援を体験してみる実践研修の回、支援者のみで座学を行う回に分けて聞いてみたところ、どちらの回も全員から「とても役に立った」または「役に立った」との回答が得られた。また、自由記述によるコメント中でも「実生活に密着した指導方式を知り大いに刺激されました。」等の意見が多数聞かれた。更に今後の活動予定に関する質問でも、現在既に支援に関わっている受講者以外の全員から、今後日本語支援の活動に「すぐに携わりたい」または「近い将来携わりたい」との意見が聞かれたことから、今回の「難民を中心とした定住者を支援をする支援者に対する研修を実施することにより、定住者の生活の安定、質の向上を図ることを目的」とした講座は、概ね初期の目標を達成したと考える。

取組3「日本語教育のための学習教材の作成」においては、上記取組1、2の両講座において日本語学習者、支援者の双方から「教材が役に立った」との意見が得られた。本事業を通して総数122枚の教材が新たに作成でき、文化庁ホームページ上で全国の支援者、学習者に供することができるようになることから、今回の「難民を中心として定住者に対し、日本語学習支援用教材を作成することにより、定住者の生活の安定、質の向上を図ることを目的」は概ね達成できたと考える。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

講座のカリキュラム策定において、標準的なカリキュラム案にある広範なテーマを参考にすることにより、偏りなく幅広いテーマを設定するために役立ったと考える。また、支援者が学習者にとって必要な「生活日本語」のテーマを考える際、標準的なカリキュラムが大いに参考になった。今回は実施しなかったが、学習者自身に学びたいテーマを選んでもらう際にも、同カリキュラムが有用な素材になると考える。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回本事業を計画、実施するに当たり、当協会所在地である港区にある多数の機関にご協力いただいた。港区役所および港区国際交流協会には、支援者および学習者への講座の広報、参加者募集につき協力を仰ぎ、港区内在住または港区内に勤務する多数の支援者、学習者の方にご参加いただくことができた。当協会の近くに事業所を置き、難民支援に尽力している株式会社アルーシャからは、講座実施において貴重な意見をいただくとともに、支援者と学習者への参加の呼びかけにご協力いただいた。同じく港区内に東京本部を置く株式会社 ファーストリテイリングは、多くの外国人従業員を抱え、その日本語支援の有り方を検討中であるが、支援に関心のある多数の社員に今回支援の現場を見ていただくことができた。港区内に本拠を置く公益財団法人アジア福祉教育財団は、その活動は港区内には限らないものの、学習者への参加呼びかけおよび講座実施においてご協力いただいた。当協会に隣接する浄土真宗本願寺派光明寺は、長年地域において住民のコミュニケーション活動を熱心に行っているが、今回その講堂において講座を実施することにより、地域に根差した事業を展開することが可能となった。以上のように、当協会所在地である港区内の関係者と連携をとって本事業を推進できた意義は大きいと考える。

(5) 改善点, 今後の課題について

取組1「日本語教室の実施」においては、日本語力にレベル差のある受講者の参加が想定される。日本語力の低い受講者のみでなく、比較的コミュニケーション力の高い受講者にとっても効果的なプログラム立案、講座運営を検討する。長期間開催の講座では、受講者の負担を軽減する必要があると考える。次回は週1回での開催を検討する。より多数の参加者を得るために、次の機会には定住者のコミュニティ等に直接働き掛けるなどの策を講じる。

取組2「日本語教育を行う人材の養成・研修」においては、講座開催期間を多少長めにとることにより、実践的な支援方法にとどまらず、日本語支援に役立つ背景の基礎知識も盛り込んだ講座内容を検討する。

取組3「日本語教育のための学習教材の作成」においては、今回122枚の教材をあらたに作成したが、更に幅広い学習テーマにおける教材を開発し、支援者および学習者に供することに努める。

地域の関係者との連携においては、今回連携した機関との関係を更に深め、引き続き協力を推し進めていく所存である。

(6) その他参考資料

「生活日本語」勉強会のお知らせ

日本の社会で生活していくために必要な日本語と一緒に勉強しませんか。学校などに通って日本語を勉強するチャンスのない方で、18才以上の方ならどなたでも参加できます。

【日 時】 2013年10月7日～2014年2月10日、毎週月・木曜日、18:45～20:45
全30日、60時間(祝祭日と11月7日、12月30日、1月2日はお休み)

＊できるだけすべての回にご参加ください。

【場 所】 光明寺会館(浄土真宗本願寺派 光明寺) 下記の会場地図参照
東京都港区虎ノ門3-25-1

【参加費】 無料(会場までの交通費は自己負担)

【申込み】 下記の申込みフォームにご記入の上、FAX でお申込みください

FAX:03-3459-9660 (2013年9月16日必着、先着10名様まで)

【内 容】 実生活に必要な日本語(例:交通、買い物、職場の日本語)

コミュニケーションに必要な日本語(例:身近な人、地域の人と話す)

自己表現のための日本語(例:街へでかけよう、自国紹介)

パソコンを使った日本語入力の練習、など

【申込みフォーム】

氏名 _____ 年齢 _____ 才

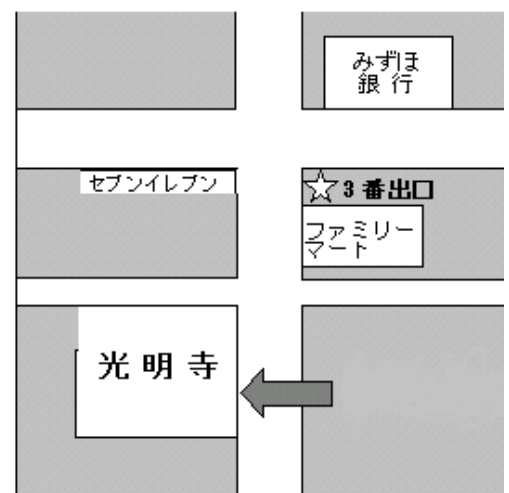
国籍 _____ 性別 _____ 男 / 女

住所 _____

電話 _____

メールアドレス _____

【会場】



東京メトロ 日比谷線 神谷町駅 ☆3番出口より徒歩1分

学習者のみなさまへのアンケート：集計結果

1. 現在のお仕事をお書きください(詳しく書いてください)。

⇒ クリーニング1、居酒屋1、仕事なし2

2. 今回の「生活日本語」勉強会は役に立ちましたか。1つ選んでチェック(☑)してください。

1) 全体を通して

☒ ①とても役に立った ☐ ②役に立った ☐ ③あまり役に立たなかった ☐ ④まったく役立たなかった

2) 使用した教材について

☒ ①とても役に立った ☐ ②役に立った ☐ ③あまり役に立たなかった ☐ ④まったく役立たなかった

3. 今回の「生活日本語」勉強会の長さ、一週間の回数、時間について

1) 長さについて

☒ ①もっと長い方がいい ☒ ②ちょうどいい ☐ ③もっと短い方がいい

2) 一週間の回数について

☐ ①3回の方がいい ☒ ②2回でちょうどいい ☒ ③1回の方がいい

3) 時間について

☐ ①もっと早い時間がいい ☒ ②ちょうどいい ☐ ③もっと遅い時間がいい

4. 今回の「生活日本語」勉強会に関するコメントをご記入ください。

(特に役に立ったこと、改善してほしいことなど)。

日本ごかくものもつとりしたい。

にほんごとかんじばんきょうしたいです。しゃべるとかくよに。

日本語の勉強は私のほうはあまりつくなかったとおもいます。

5. 次回の「生活日本語」勉強会では、どんなことを勉強したいですか。

日本人みたい日本ごしりたいです。

私は日本語だけ勉強したいです。LEVELⅢしけん日本語のりよくしけんにうかりたいからよろしくおねがいします。

6. この「生活日本語」勉強会を友だちに勧めたいですか。

☒ はい ☐ いいえ

以上

支援者のみなさまへのアンケート:集計結果

1. 「日本語支援」勉強会の講座は役に立ちましたか。 当てはまる□にチェック(☑)をお入れください。

1)全体を通して

☒ 1 とても役に立った ☒ 5 役にたった ☐ 0 あまり役に立たなかった ☐ 0 役に立たなかった

2)実践研修の回(学習者と一緒に勉強した回)

☒ 2 とても役に立った ☒ 4 役にたった ☐ 0 あまり役に立たなかった ☐ 0 役に立たなかった

3)実践研修以外の回(ボランティアの方だけの勉強会の回)

☐ 0 とても役に立った ☒ 5 役にたった ☐ 0 あまり役に立たなかった ☐ 0 役に立たなかった

4)使用教材

☐ 0 とても役に立った ☒ 6 役にたった ☐ 0 あまり役に立たなかった ☐ 0 役に立たなかった

2. 勉強会の開催期間、時間帯について

1)開催期間

☐ 0 もっと長期間の方がいい ☒ 5 ちょうどよい ☒ 1 もっと短期間の方がいい(短期間でもいい)

2)時間帯

①実践研修の回(18:45-20:45)

☒ 1 もっと早い時間帯がいい ☒ 4 ちょうどよい ☒ 1 もっと遅い時間帯がいい

②実践研修以外の回(16:30-18:30)

☒ 3 もっと早い時間帯がいい ☒ 1 ちょうどよい ☒ 1 もっと遅い時間帯がいい

3. 今後について

1)今後、日本語支援の活動に携わることがあります。

☒ 2 講座に参加前から継続中 ☒ 1 すぐに携わりたい ☒ 3 近い将来携わりたい ☐ 0 携わる予定はない

2)現在携わっている方／これから携わる方にお聞きます。

どちらの教室で活動なさっていますか／活動なさる予定ですか。

⇒港区国際交流協会 1

土浦ユネスコ協会主催ボランティア教室 1

機会があれば参加 2

4. 今回の講座に関するコメントをご記入ください。

- ・日本語を教えてさしあげるためのノウハウをもう少し具体的に順序立って学べたら尚良かったなとおもいました。日本語支援活動の学習をするチャンスを下さりありがとうございました。
- ・漢字であつたり、日本語を学習すること、教えることはとても難しいことだと思いました。日本で生活をする外国の方がこの講座を通してたくさんの日本語を学んでよりよい生活を送れたら良いと思います。素敵な活動だと思いますので今後また機会があれば参加したいです。
- ・実践研修の日の帰りが遅くなるので大変だった。実践練習の日に、日本人の数の方が多く残念だった。AJALT の方でもっとちがう日本語教室をさせているなら、その見学等もしてみたかった。単にボランティアだけでなく、日本語教師の資格の取り方や実践にも教えて頂きたかった。
- ・「みんなのにほんご」に代表されるような積み上げ方式に対して、実生活に密着した指導方式を知り大いに刺激されました。また「難民」について今までまったく無関心でありましたが、この点でも勉強になりました。
- ・意外なところで外国人にとって理解しにくい点があることを知り参考になった。日本での生活に順応できる為の日本語の勉強に焦点をあててあり、組織的なバックアップのない外国人には非常に有意義だと思う。

5. 今後、どのような講座があるといいとお考えですか。

- ・あまり費用のかからない日本語教師の講座もお願いしたい。
- ・特になし(1名)

以上